

大規模災害へ確かな備えを

岐阜市では、今後30年以内の発生確率が60～90%程度と予測される南海トラフ巨大地震が懸念されているほか、台風や集中豪雨による洪水など、自然の脅威にたびたび直面しており、大規模災害による危険と常に隣合わせの状態です。災害対策は、一人一人が普段から防災意識を高め、常に「自分事」として捉えることが重要で、自分の身の安全は自分で守る「自助」と地域で助け合う「共助」が肝心です。対策を進めることで、いざという時にも慌てずに行動でき、被害を軽減できます。
問 危機管理課(市庁舎6階/☎267-4763)

■岐阜市での南海トラフ巨大地震による被害予測

令和2年度に実施した南海トラフ巨大地震の被害想定では、市内の震度は5強～6強と予測されています。また、液化化現象が広範囲で発生する危険性が予測されています。市ホームページで想定結果をご覧ください。

地震に対する、家庭の備えを

■家族で防災対策について話し合しましょう

大規模災害が発生したとき、自分や家族の安全、財産を守るには、落ち着いて行動することが大切です。実際に災害が発生した時でも冷静に行動できるよう、災害の状況を想像しながら次のような項目を家族で話し合い、確認しましょう。

- 家族が一緒の場合：避難場所と避難経路、役割分担(火を消す、ガスの元栓を閉める、ブレーカーを落とす、避難口の確保、貴重品の持ち出し、隣近所への声かけなど)
- 家族が別々の場合：連絡方法と合流場所・合流方法
- 子どもや高齢者・障がいのある人がいる場合：通園・通学先や施設との連絡・送迎方法
- 自宅内外の危険物や危険箇所とその対策
- 非常食の確認 応急手当の方法
- 子どもだけで留守番をしている場合の行動(身の守り方、連絡方法、避難場所)

■地域を守る「自主防災組織」による共助の取り組み

50の地域にある自治会連合会全てで自主防災組織が結成されています。自治会に入り、地域の行事や防災訓練に積極的に参加するなど、普段から地域で協力し合える「顔の見える関係」を築いておきましょう。自分事(自助)と地域の取り組みへの参加(共助)が「地域防災力の向上」につながります。

■避難場所・避難所を決めておきましょう

災害発生時に慌てないよう、自宅や職場から近い避難場所・避難所を把握しておきましょう。実際に歩いて、避難経路や所要時間、経路上の目標物や危険箇所を確かめます。避難場所や避難経路はあらかじめ複数決めておきましょう。
→市ホームページで指定緊急避難場所・指定一般避難所の一覧と位置をご覧ください。

●地域の「指定緊急避難場所」および「指定一般避難所」の看板

◆特徴1 洪水・内水・土砂災害・地震の各災害別に災害時の利用可否を示す○×△や注意事項を表記しています。



◆特徴2 多言語(英語、中国語、タガログ語)で表記しています。

◆特徴3 「指定緊急避難場所」や「指定一般避難所」を文字だけでなく、絵文字のマークから認識できるようにしています。



●指定緊急避難場所

発生直後に、一時的に避難する場所です。主に地震の時に避難する公園や学校のグラウンドなどの空き地や、風水害の時に避難する学校や公民館を指定しています。※指定緊急避難場所と指定一般避難所に重複して指定されている施設があります。

●指定一般避難所・その他避難可能施設

住宅が被災・倒壊したり、がけ崩れの危険があったりするため、自宅へ帰れなくなった人が生活する場です。学校の体育館や地域の地区公民館、民間施設を指定しています。

■災害が起きる前に避難の準備をしましょう

避難所へ避難することが全てではありません。身の安全の確保ができる場合は、避難所以外への避難も検討しましょう。

●在宅避難など避難所以外への避難の準備

自宅の災害の危険性をハザードマップで確認し、安全が確認できる場合は在宅避難を検討しましょう。避難している場所を市に知らせることができる、県の「分散避難システム」をご活用ください。また、安全な地域に住む親戚や友人宅への避難も検討し、避難の受け入れを事前にお願いとするとともに、災害が想定される場合は早めの避難を心がけましょう。

●避難所への避難の準備

避難所の受付時の混雑を防ぐために「避難者カード」を事前に記入し、非常持ち出し品と一緒にしておきましょう。また、避難当日の健康状態を記入する「健康状態チェックカード」も準備しておきましょう。※「避難者カード」および「健康状態チェックカード」は市ホームページで入手できます。

■「岐阜市総合防災安心読本」を活用して、災害に備えましょう

「岐阜市総合防災安心読本」には、災害発生時にとるべき行動と、日頃から家庭でできる防災対策を掲載しています。また、皆さんが生活する地域で想定される被害や災害時に利用する避難場所・避難所を示した地震、洪水、内水、土砂災害の各種ハザードマップを掲載しています。自宅や通勤・通学先の周辺の被害想定を把握し、災害に備えましょう。



→危機管理課で入手できるほか、市ホームページ、スマートフォン向けアプリからご覧いただけます。
アプリ版▶ (iOS・Android)



■災害・避難情報を確認できるよう、登録を!

●ぎふ防災安心メール

◆配信する主な情報 ①岐阜市に発表された注意報・気象情報など ②避難情報(避難指示など) ③災害情報(被災状況や避難所の開設状況など) ④熱中症注意喚起などの行政情報

◆登録方法 携帯電話やスマートフォンで、二次元コードを読み取り空メールを送信するか、次のメールアドレスあてに空メールを送信。登録用ページが返信されます。

必要な情報などの登録を行ってください。機種によっては登録できない場合があります。
◆登録用メールアドレス → t-gifu-city@sg-p.jp



●緊急速報メール(エリアメール)

市内にいるNTTドコモ、au、ソフトバンク、楽天モバイルの携帯電話をお持ちの人に対して、一斉に災害・避難情報を配信します。使用料などは無料です。

◆利用方法 対応している携帯電話や受信設定方法などは、各社ホームページでご確認ください。

◆受信する情報 緊急地震速報、高齢者等避難、避難指示、緊急安全確保、国民保護に関する情報 など

■地震に強い住まいづくりを進めましょう

●地震発生時に起こる3つの危険

けが：家具類の転倒に伴いけがをする恐れがあります。
火災：転倒した家具類が電気コードを傷つけることにより、電気火災が発生する危険があります。
避難障害：転倒した家具類が避難経路を塞いでしまい、避難が困難になります。

【家具や家電製品の転倒・落下を防ぐために】

- ①家具をL字金具や突っ張り棒などで柱に固定する。
- ②家具の下に滑り止めシートを敷く。
- ③家具を積むときは上下を平型金具で固定する。
- ④重い物を下に、軽い物を上に収納し、重心を低くする。
- ⑤家具の上に物を置かない。
- ⑥冷蔵庫は転倒防止用ベルトで背面と、テレビは転倒防止用バンドやスタンドで背面やテレビ台と固定する。
- ⑦1本のコードで吊られている照明器具は補強する。
- ⑧家具や家電製品が倒れても安全な位置で就寝する。

【ガラスや食器類などの飛散を防ぐために】

- ⑨窓ガラスや食器棚のガラスなどに飛散防止シートを貼る。
- ⑩食器棚の食器が滑り出さないように防止枠を設ける。
- ⑪開き扉は掛け金などを使い、扉が開かないようにする。

【火災を防ぐために】

- ⑫カーテンは防災加工品を使用する。
- ⑬ガスコンロなど火元付近には物を置かない。
- ⑭暖房器具の対震自動消火装置が作動するか点検する。
- ⑮火元付近に消火器を備える。浴槽に水を張る。
- ⑯揺れを感知して電気を遮断する「感震ブレーカー」を設置する。

【避難時の通路を確保するために】

- ⑰避難時の通路となる廊下やドア、玄関には家具や荷物を置かない。
- ⑱寝室や高齢者・子どもの部屋にはなるべく大型家具を置かない。

■非常持ち出し品・非常備蓄品を準備しましょう

避難時に持ち出す「非常持ち出し品」と、救援物資の到達や電気・水道・ガス(ライフライン)の復旧までの生活を乗り切る「非常備蓄品」に分けて準備しましょう。

●非常持ち出し品

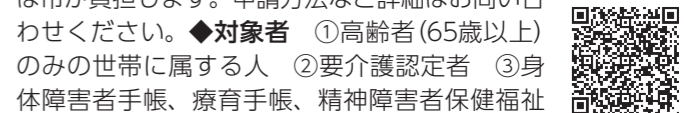
- 避難時に両手が使えるよう、リュックサックやアウトドア用ベストに入れ、玄関や枕元など持ち出しやすい場所に置きます。重くて避難の妨げにならないよう、軽くて小さな最低限の物を選びます。
- 飲料水 食料 食べやすく、保存期間が長く、調理せずに食べられるもの マイナンプーカーカードなど
 - 貴重品 現金(公衆電話用に10円硬貨も)、通帳、家族や親戚・知人の住所・電話番号の控えなど 救急用品・医薬品 高齢者や持病のある人は薬やお薬手帳の写しも
 - 携帯用トイレ マスク 手指消毒液 せっけん
 - 体温計 避難者カード・健康状態チェックカード
 - ホイッスル(笛) スリッパ ヘルメット・防災頭巾
 - 厚手の手袋(軍手) 懐中電灯(予備の電池も) 携帯電話(手動充電器や予備バッテリーも) 携帯ラジオ(予備の電池も)
 - 雨具・防寒具 衣類(上着・下着・靴下) 底の丈夫な靴
 - ビニール袋 タオル・ハンカチ ティッシュペーパー・ウェットティッシュ 携帯用カイロ ナイフ・缶切り
 - ライター・マッチ・ろうそく 筆記用具(油性マジックペン)
- 【家族構成や世帯事情に応じて】
- 紙おむつ・おしりふき 授乳用品
 - 眼鏡・コンタクトレンズ 補聴器・入れ歯 生理用品



●非常備蓄品

非常備蓄品は、最低でも3日分、できれば1週間分が必要です。無くては生活できない物を選び、家具や家屋が倒れても取り出しやすい場所(屋外の物置、車のトランク、玄関付近など)に分散して配置し、家族全員が保管場所を把握するようにします。

- 飲料水 1人1日3ℓ(リットル)を目安に。給水用ポリタンクにもためておく。
- 食料 保存期間が長く、簡単な調理で食べられるもの ●水を加えて食べられる米(アルファ化米) ●缶詰 ●乾パン・ビスケット ●インスタント食品・レトルト食品 ●あめ・チョコレートなど菓子類
- 簡易トイレ 割り箸 スプーン・フォーク 紙皿・紙コップ 毛布・寝袋 敷物(ビニールシートなど)
- 衣類(上着・下着・靴下) タオル・ハンカチ
- ティッシュペーパー・ウェットティッシュ
- 水を使わないシャンプーなどの洗面・入浴用具
- カセットコンロ(ガスボンベも) 固形燃料
- ランタン 新聞紙 鍋 ラップフィルム
- 布製ガムテープ さらし ビニール袋・ポリ袋
- パールやスコップなどの工具・ロープ(救助活動用)



■家具固定器具の取り付けを無料で実施

家電製品を除く、たんす、本棚など居室に設置の家具2点まで、家具固定器具を取り付けています。器具代および取り付け費用は市が負担します。申請方法など詳細はお問い合わせください。◆対象者 ①高齢者(65歳以上)のみの世帯に属する人 ②要介護認定者 ③身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの人

▲詳細はこちら